きずな

2016 3 March

今号の題字
都城市立西中学校 3年
長野 百花さん

地域のまちづくりに貢献する中学生ボランティア

都城市立西中学校（笹本勝弘校長・５４０名）では、毎年11月に実施される地域行事「横市まつり」にボランティア活動として参加しています。今年は２日間で延べ１６０名の生徒が参加しました。この取組は、平成16年度から生徒会交流委員会の活動の一環として始まり、先輩からの伝統として引き継いでいます。

地域においては高齢化が進み人手不足もあって「まつり」の運営が悩みの種です。そこで、学校とＰＴＡと地域が連携して地域行事の運営に当たるようになりました。地域の皆様からは、感謝の言葉を多数いただいています。これからも、学校と地域が連携して、子どもたちが安心・安全な生活が送れるような環境を作っていきたいと思います。

CONTENTS

❷・❸ 宮崎県PTA研究大会延岡市大会
❹ 平成28年度 みやざき大会
❺ PTA新聞コンクール
コラム「三輪車」
❻ トピックス「日向市立財光寺中学校」
編集後記

第61回九州ブロックPTA研究大会
みやざき大会

編集・発行：宮崎県PTA連合会
発行責任者：岩満直人
宮崎市旭1丁目3-10 婦人会館2階　Tel:0985(22)3081　FAX:0985(20)9443
http://www.miyazakikenpta.com　E-mail:mken-pta@io.ocn.ne.jp

第57回宮崎県PTA研究大会 延岡市大会

平成27年12月5日(土)に、宮崎県PTA研究大会が延岡総合文化センターで開催されました。『子どもを真ん中につながりを育もう～合い言葉は「わ」(笑・話・輪)～』の大会スローガンのもと、延岡市立南中学校 吹奏楽部のみなさんの素晴らしい演奏アトラクションで幕を開けました。開会式では主催者のあいさつにはじまり、14団体、15名の表彰がありました。

研究発表では三股町立勝岡小学校PTAが「全員プレーのPTA活動を目指して!」、延岡市立岡富中学校PTAが「人権意識をもっと身近に・あたりまえに」と題し、それぞれの活動について報告されました。そして、基調講演として、声優で歌手の佐久間レイ氏が「子どもと生きる今を楽しめていますか?心のストレッチをして、少しゆっくりしませんか?」と題して、ご自身の体験談を交え、「誰もみな、そんなに強くないし完璧でもない。転ぶし、間違える・・・それでもいいから、自分を諦めずにいつからでも、何度でも、立ち上がって歩き出してみませんか。」と優しくお話してくださいました。他にも、「アンパンマンマーチ」やさだまさしさんの「しあわせについて」を歌われました。最後に会場の全員で「ごんべさんのあかちゃん」の手うた遊びをして盛り上がりました。感動したり笑ったり、心のコリがほぐれる素敵な講演となりました。

来年度平成28年10月に行われる第61回日本PTA九州ブロック研究大会 みやざき大会に向けてキャラバン隊が開催アピールをして終了しました。

様々なPTA活動の取組を通して、親子、地域の絆を深め、協力していきたいと感じた大会でした。

全員プレーのPTA活動を目指して!
～一人の百歩よりも、全員の一歩～

三股町立勝岡小学校　PTA会長　福重 昭宏

本校では様々なPTA活動に取り組んでいます。それぞれの活動で中心となるのが6つの委員会と7つの関係団体です。委員会及び関係団体が企画から運営までを行います。

主な活動の中から、歩こう大会と子ども元気塾を紹介します。

歩こう大会は保健体育委員会と学年委員会の共催で実施します。親子で2つのコースを歩きます。6年生は長い距離を歩き、小学校最後の思い出作りとしています。5年生以下は短い距離をクリーン活動を実施しながら歩き、奉仕の精神も育てています。

子ども元気塾の活動としては、地域の行事である十五夜や一般的にはどんど焼きと言われる「おねっこ」への参加

があります。また、他校の行事のイカダ下り大会やカヌー教室にも参加します。農業体験活動としてサツマイモ栽培にも取り組みました。子ども元気塾の活動は、地域間の交流や自然とのふれあいの場になっています。

活動を行う中で問題や課題もありますが、「一人の百歩よりも、全員の一歩」となるよう、たくさんの保護者が楽しみながら活動を行えるようなＰＴＡ組織にしていきたいと思います。

「人権意識をもっと身近にあたりまえに」

延岡市立岡富中学校　ＰＴＡ会長　岡本 英男

今回、県大会と福岡市での九州研究大会で本校が発表する機会をいただきました。本校の発表者は、昨年度までＰＴＡ会長を務められた栗田怜一さんでした。人権教育に関する発表でしたが、本校のＰＴＡ活動の基本方針に「絆」という言葉があることから、ＰＴＡ活動を通してお互いの違いを認め合いながら、保護者や生徒がどう学んできたかを発表しました。発表の柱は二つの行事（講演会）でした。性同一性障がいに悩みながらも真正面から周りの方々と向き合った太田さくらさんの講演と、生徒間のトラブルの一つとなり得る携帯電話やネット問題に関する講演です。どちらも本校にとっては大きな成果をあげることができたのですが、特に反響があったのは、性同一性障がいの講演でした。大会後のアンケートも拝見することができましたが、本校のＰＴＡ活動の方向性は正しいと確信できましたし、見直すべき点も焦点化されました。

今回の発表に限らず、何かを為すことは大変ですが、その充実感は苦しかったからこそ大きいものです。今後も、お互いの「絆」をしっかりと意識しながら、大いに苦労しつつ、岡富中学校を盛り上げていこうと思っています。

実行委員長　井本 善也

第57回宮崎県ＰＴＡ研究大会延岡市大会は、平成27年12月5日（土）に県内各地より1、１００余名のＰＴＡ会員の皆様のご参加と多数のご来賓のご臨席を賜り、盛大に開催することができました。

講演では、数多くのキャラクターの声優として大活躍されている佐久間レイ氏ご自身の、子育てと仕事の両立の経験からあふれ出す言葉に笑ったり涙したり・・「親だって強くないし、転ぶし、間違える。頑張りすぎて自分を見失いそうになった時には、一休みして深呼吸。心のスイッチを切り替えて自分に優しくなれば、他の人にも子どもにも優しく柔らかくなれる。子どもはどんな親のことも大好きなんです。」佐久間氏が講演という形で開店してくれた「心の喫茶店」に、コリがほぐれた方も多かったのではないでしょうか？

今回、「おせったいのまち」と謳う延岡市で大会を開催するにあたり、研究主題である『子どもを真ん中につながりを育もう～合い言葉は「わ」（笑・話・輪）～』をどのような形で参加者の皆様に伝えるか？西府会長はじめ実行委員一同が出した一つの答えは、「子どもが居てくれるからこそＰＴＡ活動に参加することができる自分たちが、繋がりながら前を向いていこう。」という想いでした。

光り輝く未来の宝である子どもたちを見守り、支え導く私たち大人が豊かな関係を築くことで、子どもたちの健全育成の一端を担うことができるのだと信じております。本大会を一つの契機として、宮崎県内ＰＴＡ会員が繋がっていくことができればこんなに嬉しいことはありません。そして、その繋がりをもって本年10月29日（土）・30日（日）に開催される、九州ブロック研究大会みやざき大会を盛り上げていきましょう！

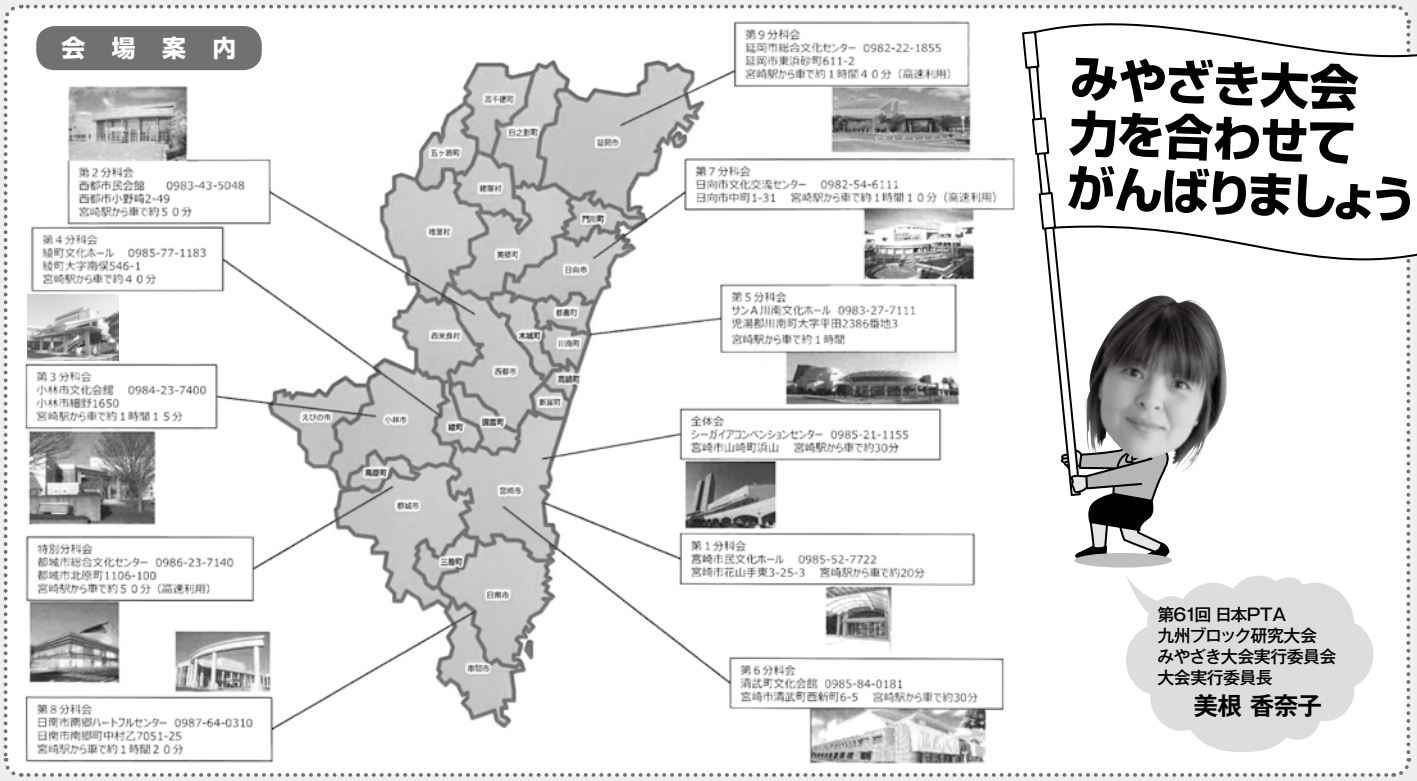
結びに、素晴らしい演奏を披露していただいた延岡市立南中学校吹奏楽部、研究発表をしていただいた三股町立勝岡小学校ＰＴＡ、延岡市立岡富中学校ＰＴＡの皆様、ご尽力いただいた全ての関係者の皆様へ心より感謝を申し上げます。

第61回 日本PTA九州ブロック研究大会
みやざき大会

未来の宝　みんなで育て、みんなで育つ
～ 人がつながる、想いがつながる、子どもたちの未来へつながる ～

分科会　平成28年 **10月29日(土)** 宮崎県内10会場

全体会　**10月30日(日)** シーガイアコンベンションセンター



おめでとうございます!
PTA活動の発展・充実に寄与

●平成27年度●
表彰者・団体

日本 PTA 全国協議会表彰

団体　串間市立都井小学校 PTA
　　高鍋町立高鍋西中学校 PTA

個人　山田由美子（綾町）
　　山 田 敦 子（宮崎市）
　　黒 木　 清（日向市）
　　外薗加奈子（串間市）

文部科学大臣表彰

団体　宮崎市立東大宮小学校PTA
　　小林市立三松中学校PTA

九州ブロック PTA 協議会表彰

団体　小林市立三松中学校保護者と教職員の会
　　諸塚村立諸塚小学校PTA　宮崎市立東大宮小学校PTA　高千穂町立岩戸小学校PTA
　　都城市立有水小学校PTA　日向市立平岩小中学校PTA

個人　黒 木　 清（日向市）　林 田 玲 子（延岡市）　外薗加奈子（串間市）
　　河 野 与 一（小林市）　狩 野 国 博（西都市）　菊 池 隆 一（諸塚村）

感謝状　山田由美子（県P会長）　高木かおる（県P副会長）　山 田 敦 子（県P副会長）

宮崎県 PTA 連合会表彰

団体　宮崎市立宮崎東小学校 PTA
　　宮崎市立久峰中学校 PTA
　　国富町立森永小学校 PTA
　　日南市立大堂津小学校 PTA
　　串間市立福島中学校 PTA
　　都城市立菓子野小学校 PTA
　　都城市立西中学校 PTA
　　三股町立長田小学校 PTA
　　えびの市立岡元小学校 PTA
　　高原町立高原小学校 PTA
　　西都市立西都銀上学園 PTA
　　延岡市立北浦小学校 PTA
　　延岡市立旭中学校 PTA
　　高千穂町立岩戸中学校 PTA

個人　椎 葉 京 子　宮崎市立宮崎北中学校 PTA
　　三 角 昭 義　国富町立木脇小学校 PTA
　　山 田 照 子　日南市立榎原中学校 PTA
　　多 田 勇 二　串間市立大束中学校 PTA
　　鳥井元一行　都城市立沖水中学校 PTA
　　馬 渡 隆 博　三股町立三股中学校 PTA
　　押 川 国 智　えびの市立真幸中学校 PTA
　　大 山　 司　小林市立野尻中学校 PTA
　　石 山 拓 磨　高原町立後川内小中学校 PTA
　　大 石 哲 也　西都市立妻北小学校 PTA
　　緒 方 利 幸　新富町立新田学園 PTA
　　佐 藤 浩 司　延岡市立北方学園 PTA
　　黒 木　 清　日向市立大王谷学園 PTA
　　田 村 武 士　美郷町立美郷南学園 PTA
　　俵　 久 永　日之影町立高巣野小学校 PTA

第36回 宮崎県小・中学校PTA新聞コンクール開催

平成28年2月8日（月）
婦人会館 さくらにて合同審査

平成27年度　第36回宮崎県小・中学校PTA新聞コンクール入賞校

小学校		
最優秀賞	津の峯	日南市立 油津小学校
優秀賞	ももちぐさ	延岡市立 延岡小学校
優良賞	かんな	宮崎市立 大塚小学校
	財風	日向市立 財光寺小学校
努力賞	ふもとっこ	都城市立 麓小学校
	みどり	宮崎市立 住吉南小学校

中学校		
最優秀賞	ハピネス	えびの市立 真幸中学校
優秀賞	すみよし	宮崎市立 住吉中学校
優良賞	大樹	日向市立 財光寺中学校
努力賞	ピロティ	宮崎市立 赤江東中学校

応募総数		
	小学校	39校
	中学校	25校
	合同校	4校
	計	68校

最優秀賞

小学校

「津の峯」日南市立 油津小学校

中学校

「ハピネス」えびの市立 真幸小学校

講評

「企画力を磨こう」

毎日新聞宮崎支局長　加藤　学

「今年の中学校のＰＴＡ新聞はレベルが高い」。これが審査員に共通した感想でした。入賞作品は、いずれも▽道路交通法の改正に伴い、交通法規がより厳しくなった自転車についての特集▽いまや定番の感のスマホまたはＬＩＮＥ問題▽高校の学費などの進学事情――といった、身近で保護者や生徒が知りたいテーマをしっかり企画していました。中でも最優秀賞の「ハピネス」は見やすいレイアウトと充実した企画が光りました。

小学校の部は、手間暇かけた特集記事が満載で、遊び心あふれる構成の「津の峯」が頭一つ抜きん出ていました。他に今や常連の感のある「かんな」「財風」「みどり」も力の入った特集記事がそろい、「広報部に良き伝統が生まれている」と感じました。小学校にまつわる挿話を散りばめたすごろくを作った「ももちぐさ」、学童数41人ながら盛りだくさんの記事を載せた「ふもとっこ」も高評価でした。

残念だったのは小学校の応募が昨年より13校少なかったことです。コンクールは全国予選を兼ねており、今回応募されていないＰＴＡ広報部の皆さんは来年こそぜひお寄せください。

三行詩 ～おめでとう！日本ＰＴＡ全国協議会会長賞～

文部科学省・日本PTA全国協議会主催の「楽しい子育て全国キャンペーン」～家庭で話そう！我が家のルール・家族のきずな・命の大切さ～三行詩募集事業の優秀作品が決定しました。

宮崎県からも、日本PTA全国協議会会長賞に輝きました。おめでとうございます。

●受 賞 者　延岡市立黒岩小学校 3年　甲斐瑠々花さん

●受賞作品　おかあさんが教えてくれた
「かがみは先にわらわない」
いつも心においてるよ。

また、この事業には、県内各地からたくさんの作品が寄せられました。
ご応募ありがとうございました。

平成27年度「国内研修事業」参加者について

日本PTA全国協議会は、中学生を対象として、「国内研修事業」を実施しています。集団宿泊を通してコミュニケーション能力や他者への理解を高めるとともに、体験活動を通じて社会環境や自然環境への視野を広めることが目的です。

県PTA連合会では、作文審査によって推薦者を決定しました。審査の結果、次の2名が選ばれました。

河野 朱李さん（日南市立吾田中学校2年）
鮫島 志織さん（宮崎西高等学校附属中学校2年）

期間 平成28年3月26日（土）～30日（水）
場所（独）国立青少年教育振興機構「国立沖縄青少年交流の家」

コラム 三輪車

保健室からの発信

西米良村立西米良中学校
養護教諭　椎　富美子

「先生、いつからこの学校におると？」ある保護者の一言。ショックです。年度末のこの言葉は、この一年間、学校教育活動で自分の役割を十分に果たせなかったという結果のあらわれです。

多くの場合、子どもの保健室の利用がないと保護者に直接会ってじっくり話をするという機会がありません。校内に一人しかいない立場、児童生徒の健康を預かる立場、「覚えて欲しいなぁ」とは思うものの、自分から積極的にアピールしなければ、なかなかそうもいきません。

では、そのアピールとやらは…ずばり健康教育。学校保健委員会・各健康教室・保健便り等々です。家庭や地域へ協力要請することも度々あり、時に申し訳ない気持ちにもなりますが、課題解決の最大の策はいかに「連携」し、「輪を広げて」いけるかにあります。いつも快く受け止め、応援してくださる家庭や地域がある、それは心強い味方です。想いは一つ、子どもたちの未来のためにです。

今年の忘年会。「椎先生、元気にしちょる？」先の保護者からの言葉にガッツポーズ！これからも家庭・地域とともに、保健室から子どもたちへエールを送りたいと思います。

日向市のキャリア教育と本校の取組について

目標や夢を持ち、自ら進んで学び続ける生徒の育成を目指して

【日向市立財光寺中学校】（土井智喜校長　生徒数425名）

日向市は県北部の日向灘に面し、日照時間が全国トップクラスで温暖な場所です。また、古くから細島港という天然の良港に恵まれ、県のゲートウェイとしての役割を担ってきました。人口は6万3千人程で、小学校14校、中学校7校、分校2校があります。日向市は「ひゅうが学校教育プラン」に基づき、「ふるさと日向を愛し、豊かな国際感覚をもち、確かな学力と豊かな心を身に付けた、自分に自信と誇りをもって社会に貢献しようとする気概のある子ども」を育成することを目指して、小中一貫した英会話科の実施など、「日向ならではの教育」をいろいろと実践しております。

本校伝統の「無言・気づきの清掃」の様子

平成25年には日向商工会議所内にキャリア教育支援センターが設けられ、学校と地元企業や地域社会を結ぶとともに、小・中・高等学校が地域と連携して進めるキャリア教育をサポートする体制が整えられました。日向市が進めるキャリア教育の特徴は、キャリア教育支援センターのコーディネートにより、地域の大人が、働く喜びと苦労を子供に本気で語る「よのなか教室」の実践を通して、「日向の子供たちの未来づくり」を進めていることです。キャッチフレーズとして「日向の大人はみな子供たちの先生」を掲げています。

そのような恵まれた環境の中、財光寺中学校では「学ぶ意欲を持ち、社会の変化に主体的に対応できる力を身につけ、心身共にたくましい生徒を育成する」を教育目標に掲げ、これまでの取組に加え、キャリア教育の考え方を学校教育の中心に据えて、日々の各教育活動に取り組んでいます。

具体的には、まず校内の主題研究において、キャリア教育の考えを踏まえた授業づくりを行っています。普段の授業の中で、キャリア教育で培いたい基礎的・汎用的能力を子どもたちが身につけることができるよう、日々授業改善に取り組み、全職員で研究授業を行っています。また、学校行事においても、キャリア教育支援センターのご支援と地域や各事業所の皆様のご協力を得て、1年生では13歳のハローワーク、福祉・防災体験活動、2年生では職場体験学習、修学旅行、立志式、3年生では進路学習、出前授業、面接指導などを進めています。

2年生職場体験学習（スーパーでの実習）

今後もこのような3年間を見通した系統的かつ総合的なキャリア教育を進めることで、「様々な困難にチャレンジし、目標や夢を持って自ら進んで学び続ける生徒」の育成を目指していきたいと考えています。

編集後記

編集会議（1月24日）の最中、窓の外では雪がちらついていました。自分の出身地のえびのでは、中学生の頃、年に何回か雪が積もっていました。その日は、体育は雪合戦、理科は雪の結晶の観察（という名目の雪遊び）など、今とは違い大らかな時代だったような気がします。　水俣

春から子どもが中学校へ進学します。初めてのことで、準備もいろいろあって親子でドキドキ。制服姿を見て、こんなに大きくなったんだなぁとしみじみ感じました。もうすでに身長も追い越されています…。　安達

年度末でもあり、何かとバタバタしている。考えてみれば私も「きずな」の編集会議に携わり一年が過ぎようとしている。何もわからない私を優しく受け入れて下さった皆様　ありがとうございます。"感謝"の一言です。　梅野

娘が通う中学校の「立志の集い」に出席した。子どもたちの決意や目標についての発表に、一人ひとりの心の成長を感じることができて嬉しかった。夢に向かって前に進んでいく子どもたちにたくさんの応援の声をかけていこう。　満田

親として初めての大学受験。苦しそうな娘を前に『じゃー合格するまで！』とス○バのコーヒー断ちを宣言。誘惑に負けて秋ごろには飲んでしまいましたが(笑)。コーヒー飲み飲み、幸せを願っていきましょう。　大瀬